

あべともこニュース

通常国会閉会、残された政治とカネ、壊される社会保障

◆ガザ地区の即時停戦を求める決議
21日、約半年に及んだ第213通常国会が閉会。政治とカネ問題然り、政府自民党の杜撰かつ、拙速な法案審議により、数々の問題法案も成立しました。

他方、昨秋よりたくさんの方が犠牲となつているガザ・パレスチナ地区での戦闘に対して、ようやく会期末に衆参で「ガザ地区における人道状況の改善と速やかな停戦の実現を求める決議」が採択。阿部とも子が事務局長を務める超党派「人道外交議員連盟」をはじめ、関係有識者・NGOの働きかけの結果ですが、今後とも、復興に向けての課題が山積みです。

18日の議連総会では、現地での飢餓・飢饉がラファ侵攻以降、更に深刻化し、栄養失調による子どもの治療ができなくなり、餓死も起きていることやイスラエル軍による攻撃で物資搬入ルートが絶たれ、侵攻前より7割減という実態が明らかになりました。今後、政府や外務省へ必要な支援が行き渡るよう、議連として要請をしていきます。



衆議院議員あべともこプロフィール

神奈川県12区（藤沢市・寒川町）
当選8回、東京大学医学部卒業、
小児科医、あべともこ子ども
クリニック（湘南台）理事長
現在、厚生労働委員会
原子力問題調査特別委員会委員

あべともこ
公式X (旧Twitter)
@abe_tomoko
https://twitter.com/abe_tomoko

あべともこ事務所
公式Facebookページ
<https://www.facebook.com/abetomoko.jp>

エネ基改定の論点

- ①2035/40年度の電源構成
 - ・COP28：2035年NDC60%削減（19年比）
 - ・電力消費量：大幅増加？
- ②原子力の扱い：GXの反映
 - ・「最大限活用」：新増設・リプレースの明記
 - ・「可能な限り依存度低減」：削除？
 - ・事業環境整備、事業の予見性確保、無過失責任制度の見直し
- ③化石燃料・火力の扱い
 - ・G7気候・エネルギー大臣会合：脱石炭火力で合意
 - ・水素・アンモニア、CCSの位置付け
- ④再エネの扱い：更なる導入？
 - ・COP28：2030年までに再エネ設備容量を世界で3倍

出典：高橋氏提供資料

◆国会エネ調どうなる原発依存の低減
18日、超党派「原発ゼロ・再エネ100の会」は、「これからのエネルギー政策を考える―エネ基とGXの方向性―」をテーマに109回目の国会エネルギー調査会（準備会）を開催。講師に、高橋洋氏（法政大学教授）をお招きして、3年毎改訂の「エネルギー基本計画」（エネ基）を中心に政府ヒアリングを行いました。

とりわけ、昨年成立の「GX関連法」との関係はどうするのか。

◆社会保障が危ない！
15日、立憲民主党神奈川12区国政報告会を開催。東大名誉教授・経済学者の大沢真理さんから、子ども子育ての財源負担を「社会保障料に被せるのはもつてのほか」と題し、ご講演いただき、阿部とも子とも対談。

大沢さんのご指摘は、制度設計が「昭和のまま」。正規・終身雇用制度が当たり前だった。1970年代モデル”をそのまま放置した安倍政権以後、社会保障はどんどん劣化。他方、社会を見るとコロナ禍で働き方も賃金給与体制も大きく変動。非正規にならざるを得ない方も出るなど、いわゆる「セーフティネット」が時代にそぐわないものであることが顕著になったと。

最近では、若年女性の人口が細り、非婚率も高まり、子どもは増えなくなる一方、これからの年金の持続可能性はどうなるのか。高齢者も若者も不安です。

女性に多い非正規雇用も含めて、ジェンダー平等の視点から新たな「共助」の仕組みを構築する。制度見直しは急務です。

